

当協会が実施した過去10年間の肝炎検査の まとめ

○黒沼 美津子、桐生理江、高橋 幸子、
5 及川 秀誠、柴田 眞一、鈴木 美保子

公益財団法人福島県保健衛生協会

【はじめに】

10 慢性肝炎ウイルスの患者・感染者は、日本
国内で300万人を超すと推定されている。こ
のため、平成14年度からC型肝炎等緊急総合
対策の一環として、肝炎ウイルス検診が保健
事業の健康診査に追加された。今回、当協会
15 で肝炎ウイルス検診を受診した過去10年間の
実施状況を調査したので報告する。

【対象と方法】

平成14年度から平成23年度までの10年間に
地域健診で肝炎ウイルス検診を受診した
20 167,636名（男性62,782名、女性104,854名）を

対象とし HBs 抗原、 HCV 抗体検査の受診者数及び陽性者率を年度別、年齢別、性別で比較検討した。

【結果】

25 年度別受診者数は男女とも平成18年度をピークに年々減少し、平成20年度からは横ばい傾向にある。年齢別の受診者数をみると60歳代が62,433名（34.2%）、70歳以上が28,290名（16.8%）で60歳以上が全体の5割以上を占めていた。受診者数は全ての年齢層で男性が女性の約半数程度であったが、特に受診対象年齢の40歳では、男性が女性の約3割に留まっていた。

35 B型肝炎ウイルスの陽性率を年度別で見ると、1.63%から0.82%の間で推移していたが、ここ数年は横ばい傾向にあった。年齢別では、50歳代、60歳代で高い陽性率を示しており、40歳は0.33%から1.25%で推移していた。

40 C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高いと判定されたのは、1.16%から0.38%で推移

しており、年々減少傾向にあった。年齢別では、70歳以上で最も高く、40歳では平成22年度以降は陽性者がいなかった。

45 B型肝炎・C型肝炎とも、性別による陽性率に差は見られなかった。

【考察】

50 受診者数は、平成14年度から18年度までの5年間はC型肝炎等緊急総合対策に基づき実施されていたため多かったが、平成19年度からはガイドラインの変更により、40歳及び肝炎検査未実施を検査対象としたため減少したと思われる。また、男性の受診者数が少なかったのは地域健診の際に同時実施したことが原因の一つとして考えられた。40歳のC型肝炎ウイルス陽性者に比べ、B型肝炎ウイルス陽性者が減少していなかった理由としては、その背景に、感染ルートの違いがあると思われる。

【まとめ】

60 肝炎ウイルス検査は、職域健診には付加さ

れていないことが多い項目であるため、感染を知らぬまま過ぎている人が多いことが危惧される。

65 平成14年度より開始された肝炎検査ではあるが、いまだに陽性者がいることを考えると、今後も継続しなければならない事業と思われた。

肝炎の早期発見、早期治療のための肝炎対策推進に今後もなお一層協力して行きたい。